
生臭い桜の木の下で

たかぴょん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生臭い桜の木の下で

【コード】

N0935G

【作者名】

たかぴょん

【あらすじ】

詩的な内容。ナイーブなあなたはぞっこんですね。明日は何かあるんでしょうか

格子窓からの斜陽が頬にストライプの火傷を残した

わが体臭が漂う箱の中において、思慮分別の虎はわが頭の中で吠え続けていた。

木製板と鋼の扉は、堅く唇を閉じていた。

廊下から響く周期的な足音が秒針を刻む。

偏頭痛が群れを成す。

「天皇陛下のために頭を丸めて拝めばいいんだ」

始点と終点を看守のささやきがラリーを繰り返す。

夜桜が舞う中、天皇暗殺共謀犯として、絞首刑を宣告される。

行き交う蚊は、血を吸われるのは今日だぞと言った。

両手を拘束する剛鉄はさびれた人生の匂いがした。

「さわやかな朝だな」

芝生の匂いが格子窓から迷い込む。

耳を澄ませば小鳥の合唱隊が華麗に。

壁にくつろぐ無数のカビたちは、正直な男の言葉にその花弁を茜色に染めた。

われ一億人の命を救うため、首を縦に振らず

最終尋問にも反戦の反旗を振った

年老いた両親にはわたしのことを忘れ、東北の米を息子だと思って耕せと伝えた。

いつしか隅まで届いた朝陽はほこりを舞わせ、この目はつぶれた。

余力を振り絞り「天皇陛下万歳」と大声を出せば、無罪放免。

わたしはファシズムの嵐に真実を流されたりしない。

この国が漕ぐ櫂は、突拍子も無く、間違いの嵐は吹き荒れている

真実の手綱をわたしはこの国のために、この考えを捨てない。

あなたたちは、台風直下に騒ぐ扉のようなけたけた笑いをするかもしれない。

天井から吊された縄へこの命を捧ぐ。

来るべく春、あなたたちがこの手記を手にした時、五体満足な笑顔をしているだろうか。

窓から差す陽があと四十度傾ければ最後の瞬間が訪れる。

頬に焦げ付いたストライプが、寂しいと言っていた。

微かに服務人のボール遊びのあざれ声が聴こえる。

遠い、遠い、宇宙の彼方からの声

われを生臭い桜が咲く土の下に埋めてくれ、来年に咲く桜の肥料に
してくれ

そのときわたしの耳には、扉が開かれる音がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0935g/>

生臭い桜の木の下で

2010年12月10日02時22分発行